

サステナビリティの観点から、 新型コロナウイルス感染症の影響を考える

— 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) における研究活動 —

現在私たちが直面している新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミック (感染症の世界的拡大) は、医療保健・公衆衛生分野における危機であるばかりでなく、経済、地球環境、国際関係、文化といった多様な分野に、直接的、波及的な影響を及ぼしている。

北川瑞季 / 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) コミュニケーションズ・アソシエイト

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) における、COVID-19 関連研究

サステナビリティ (持続可能性) について研究・教育活動を行う UNU-IAS 所属の研究者の中には、持続可能な開発目標 (SDGs) との関わりからこの COVID-19 感染拡大とその影響の研究に従事する専門家もいる。

以下、UNU-IAS コンサルタント、リヤンティ・ジャランティ博士* が共同執筆した研究を取り上げ、どのような観点から COVID-19 感染拡大を論じているのかを紹介したい。

● 「バイオハザード (生物学的危害) およびパンデミックに対するレジリエンスの構築：COVID-19 およびその仙台防災枠組みとの関連」 (2020 年)

「仙台防災枠組み」にみる現在の防災対策、例えば災害リスク評価や情報伝達の仕組み、国際的な団体や地域での繋がり等の活用が、パンデミックへの対応策強化にも役立つと論じる。

<https://collections.unu.edu/eserv/UNU:7614/n1-s2.0-S259006172030017X-main.pdf>

● 「ASEAN (東南アジア諸国連合) 地域における COVID-19 パンデミック：感染拡大、強いられる負担、医療能力についての予備調査報告」 (2020 年)

ASEAN 地域各国における COVID-19 感染状況、医療体制、対策を分析し、更なるパンデミックの防止には、ASEAN 諸国が協力して対策を行うことが重要であると説く。

<http://www.apjtm.org/article.asp?issn=1995-7645;year=2020;volume=13;issue=6;spage=247;epage=251;aulast=Hoang;type=0>

● 「インドネシアにおける現在の COVID-19 対策の概観と分析：2020 年 1 月から 6 月にかけて」 (2020 年)

インドネシアで実施された COVID-19 対策を分析、社会におけるレジリエンス (回復力) を高めることが、感染拡大防止に必要であると論じる。

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2590061720300284>

以上の論点から見えてくるのは、COVID-19 を巡る危機を乗り越えるためには、社会的・経済的課題を、多様な主体の協力のもと解決していくことの必要性だ。SDGs の観点から考えると、それら課題には特に目標 3 (健康と福祉)・8 (経済)・11 (住み続けられるまちづくり)・17 (パートナーシップ) などが密接に関わる。間接的には目標 1 (貧困)、10 (不平等) 等の改善も求められる。

より良い復興を (Build Back Better)

今、COVID-19 感染拡大を経て、社会をどのように立て直していくのかが問われている。パンデミック以前の状態に戻るのではなく、「より良い復興 (Build Back Better)」という言葉に表されるように、SDGs を指針とし、より公正で環境に配慮した持続可能な社会の実現を目指すことが、世界的に議論されている。SDGs に取り組むことは、パンデミックによりあらわになった社会の脆弱さへの対処に繋がる。同時に、類似の感染症拡大が起こった場合に迅速かつ的確に対応できる社会の構築をも意味するのである。UNU-IAS は、SDGs に関する専門的な知識と研究を活用し、その活動が、COVID-19 パンデミックを経て、「より良い復興」の実現に貢献することを目指したい。

※リヤンティ・ジャランティ (Riyanti Djalante)

インドネシア出身。マッコーリー大学 (オーストラリア) にて博士号を取得。2017 年 7 月から UNU-IAS にて研究・教育活動に従事、現在コンサルタントを務める。2016 年より気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 報告書の執筆に携わるほか、統合防災研究計画 (IRDR) の科学委員のメンバーでもある。

